

G-Place（ジープレイス、京都府長岡京市、綾部英寿社長）が輸入販売する常設型転落防止システム「アクロバット」が、採用実績を伸ばしている。点検管理が必要な建物屋上などにフルハーネス型安全帯のフックを掛けるためのワイヤなどを設置し、墜落防止につなげる。端部や天窓など墜落の恐れがある危険箇所接近できないよう

るアクロバットが開発した製品で、マリナーベイ・サンズやドバイ国際空港など世界各国の施設で700件以上の実績がある。G-Placeは2020年3月に国内展開を始め、計画から設置まで対応している。屋根上などに設ける水平型や、タラップ（固定はしご）を対象とした垂直型、梁などにワイヤを設置してトラック荷台で

竹内シニアマネージャーの荷役作業などの安全性を高める懸垂型を用意している。



常設型システムで転落防止

に据え付けて、点検作業などの安全性を高めることができる。転落時に衝撃を吸収する機構も搭載している。積極的に提案し、労働災害防止に貢献する。

シンガポールのメーカーであ



アクロバットの導入イメージ

接近できない。アクロバットのコンセプトには、転落危険箇所接近しないよう移動範囲を制限する「レストレイント」と、地面や床などへの激突を防ぎ転落時の衝撃も抑える「フォールアレスト」という二つの考え方が取り入れられている。いずれも「世界的なトレンド」（同社）という。アクロバットのレストレイントシステムは欧州の規格である「EN規格」に準拠している。

G-Placeの竹内元起シニアマネージャーは、「せっか

水平型は固定金具やステンレスワイヤ、衝撃吸収機構「ショックアブソーバー」、アンカー、専用金具などで構成する。自由な配置が可能で、曲線部を設けることもできる。金具を取り付けた箇所であってもフックを掛けた箇所であっても移動できる独自の「パススルー機能」を搭載しており、スムーズな作業が可能だ。ワイヤを足元に設置すれば、建築物の美観への影響も抑えられる。

竹内氏は「潜在的なニーズを感じる。建設業界のさまざまな方たちと積極的に連携し、高所作業時の事故をゼロにする目標に向けて取り組みたい」と意気込む。

例えば屋根上であれば、軒先から2m離してワイヤを設置すれば、落下の恐れがある端部に

